

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語34人 算数34人 理科34人

第5学年 国語31人 算数31人 理科31人

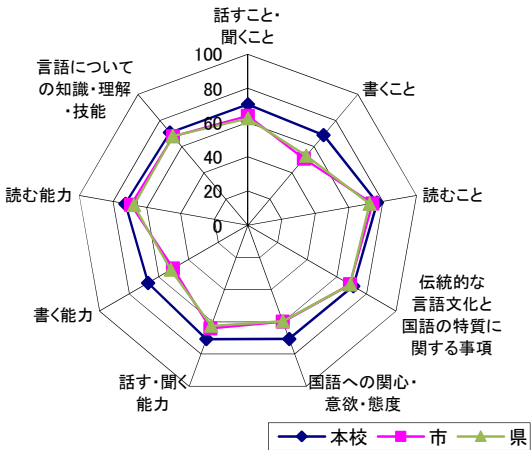
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.7	64.0	62.5
	書くこと	68.8	50.9	53.1
	読むこと	76.7	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	70.6	59.9	59.7
	話す・聞く能力	70.7	64.0	62.5
	書く能力	67.3	50.4	52.0
	読む能力	72.7	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.8	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

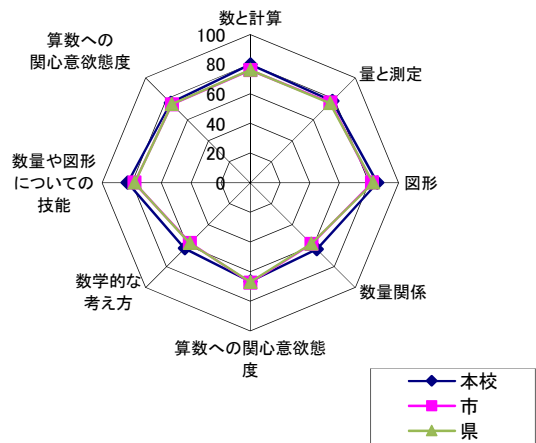
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は県の平均を8.2ポイント、市の平均を6.7ポイントそれぞれ上回っている。特に大事なことを落とさずに聞く設問では正答率が100%であり、また、話題に沿った意見と理由を考えて話す設問の正答率は、県の平均を15.1ポイント上回り85.0%である。大事なことに注意して聞き、意見を分かりやすく話す力が伸びてきていると考えられる。 ●聞きたいことをもとにインタビューの質問を考える問題では、正答率は県より高いものの38.3%にとどまった。話し合いの流れを捉えて適切に聞いたり話したりする力の育成が今後の課題である。	・様々な形態の話し合い活動を効果的に設定し、大事なことを落とさずに聞いたり、話し合いの流れを理解し、話題に沿って自分の意見を分かりやすく話したりする力をさらに伸ばしていく。 ・活動の振り返りや1分間スピーチなどで、テーマに沿った短い発表をする機会を取り入れ、話すことに対する抵抗感を軽減していく。
書くこと	○平均正答率は、市・県の平均を15ポイント以上上回っている。作文についてはすべての項目で県より14ポイント以上上回っている。また、無回答率も県や市より13.6ポイント低く、多くの児童に段落や長さなどを意識して、条件やテーマに合わせて文章を書く力が身に付いてきたと考えられる。	・様々な学習活動の中で、自分の考えや感想を書く時間を設定すると共に、作文や日記指導の充実を図る。 ・新聞記事や身の周りの興味関心のある出来事に関する文章を読むことで語彙を増やし、書く活動の中で表現力を高めていく。
読むこと	○平均正答率は市より2.8ポイント、県より4.5ポイント上回っている。特に物語の場面の様子や人物の気持ちを読み取る問題では、正答率が県より5ポイント以上高い。場面や描写から人物の気持ちを考える力が伸びてきている。 ●説明文において段落の役割を理解して文章の内容を読み取る設問の正答率は、県を上回ってはいるものの、50.0%と低かった。段落の役割や内容を的確に捉える力の育成が課題である。	・物語教材の学習において、登場人物の気持ちについて考えたことを話し合う活動を設定し、多面的に読む力を育てる指導の充実を図る。 ・説明文教材の学習において、キーワードに着目させたり要約をしたりする作業を取り入れ、段落の役割や内容の理解が深まるような指導を工夫していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市・県の平均を2ポイント以上上回っている。特に国語辞典の使い方についての設問の正答率が県を9.4ポイント上回っており、辞典についての知識や使い方の理解が図られてきていると考えられる。 ●漢字的読み書きについては、「消化」の読みと、「農業」「整える」の書きの正答率が市・県の正答率を下回り、漢字の「書き」についての無回答率も、市や県と比べて高い。個人差が大きく、理解の不十分な児童への定着が課題である。	・引き続き、漢字辞典や国語辞典の使い方を確認したり、意味調べの課題に取り組みせたりして、日々の学習の中で、辞典を使って調べる習慣を身に付けていく。 ・漢字練習の課題やステップアップテスト、小テストなどを計画的に行ったり、間違った漢字の確認を確実にしたりして、漢字の力を定着させる指導を継続していく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.8	75.8	76.1
	量と測定	78.1	76.5	76.0
	図形	85.6	82.1	82.7
	数量関係	63.3	58.4	58.2
観点	算数への関心意欲態度	66.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	62.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	76.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

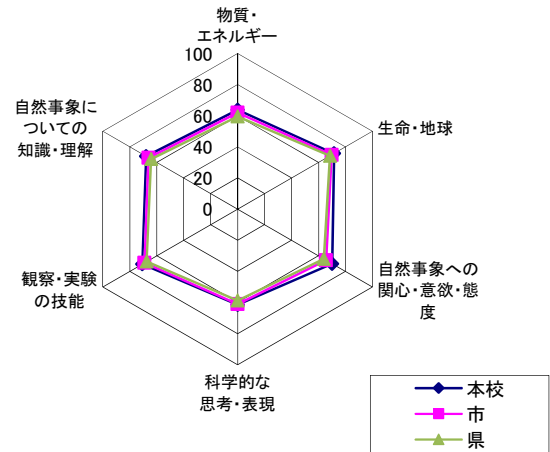
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市・県を4ポイント程度上回っている。特に2けた＋2けたの計算や、7の段の九九の設問の正答率は100%であり、また、少数や分数の内容についても多くの問題で県の平均を上回っており、学習内容が定着してきている。 ●分数の数直線上の表し方についての設問の正答率が、県より19.5ポイント低かった。分数の仕組みについての基本をおさえて、数直線を活用する力に課題が見られる。	・ステップアップテストや、朝の学習の時間、家庭学習を利用して、繰り返し問題に取り組む機会を確保するとともに、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。
量と測定	○平均正答率は、市より1.6ポイント、県より2.1ポイント上回っている。ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を選ぶ設問の正答率は、90%で、県の平均を8.5ポイント上回っており、時刻や時間についての理解が定着してきている。 ●道のりを選ぶ設問の正答率が、県より5ポイント低く、道のりの意味を理解し、実際の感覚としてとらえる力に課題が見られる。	・長さや距離についての理解が定着するように、授業の中で数直線や図表にまとめて問題の理解を促したり、体験を通して、長さの単位の確認や距離感を身に付けさせたりするなど指導を工夫する。
図形	○平均正答率は、市や県の平均を3ポイント程度上回っている。特に正三角形を作図する問題では正答率が100%であり、県より10ポイント以上高い。作図についての理解や技能が定着していると考えられる。 ●球の半径から箱の辺の長さを求める問題の平均正答率は66.7%で県の平均を1.8ポイント下回った。球の性質を理解することや、それらを活用して考える力に課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習において、様々な図形の性質の理解を図る課題や、それらを活用して考える課題に取り組み、図形についての基礎力・応用力を伸ばしていく。
数量関係	○平均正答率は、市・県を5ポイント程度上回っている。特に□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ設問の正答率は、市・県を20ポイント以上上回っている。□を使った式についての理解が定着している。 ●棒グラフの目盛りの大きさに着目して棒グラフをかくことができない理由を説明する設問では、正答率が13.3%で県の平均を8.3ポイント下回った。グラフの仕組みを理解し、与えられた条件から思考し、表現する力に課題が見られる。	・グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを文章に表す学習を継続して実施していく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.8	61.9	59.4
	生命・地球	71.5	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.0	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.4	61.0	58.8
	観察・実験の技能	70.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	67.9	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、市より1.9ポイント、県より4.4ポイント上回っている。特に、豆電球がつかなかった理由を推測する設問に関しては、県の正答率を29.1ポイント上回っており、回路の仕組みと電気についてよく理解できている。 ●2つの実験結果を比較して答える問題に課題があり、特に、光を重ねた明るさの正答率は、県より13.6ポイント低く、光の明るさについての理解が不十分である。また、電気工事をしている人が、ゴム手袋や長靴を履いている理由を説明する設問では、正答率が23.3%で県より1.6ポイント低く、無回答も20%である。知識をもとに、考えを記述する問題を課題とする児童が多い。	・課題に対する予想や実験結果などを基に、それらを分析・考察する学習活動を効果的設定し、課題に対する理解を深め、科学的な思考や表現の育成を図る。 ・復習プリントを定期的に活用し、実験結果を比較したり、実験結果の違いを考えたりする問題に取り組ませる。また、学習した内容が身近な事柄に密接に関連していることを理解させる。
生命・地球	○平均正答率は、市より1.7ポイント、県を3ポイント上回っている。特にダンゴムシを正しく観察する設問では、100%の正答率であった。また、モンシロチョウの育ち方についての設問の正答率も、県の正答率を21.5ポイント上回っており、昆虫の育ち方や観察の仕方をよく理解している。 ●実験結果を比較し操作の誤りを考察したり、地面の温度の変化をもとに時刻を推測したりする設問では、平均正答率は県の平均を6～7ポイント程度下回っている。示された結果をもとに、原因や動きを思考する力に課題が見られる。	・観察の技能向上のため、身近な自然に触れ合う機会を多く設ける。体験で得た疑問や発見を基に興味関心を高め、知識の定着を図るとともに、様々な自然や事象の共通性、多様性についても理解できるよう指導する。 ・授業の中で、一人ひとりが実際に観察・実験をする活動を十分に確保して、実験の技能の定着を図るとともに、実験結果をもとに考察する時間を多く設定し、思考力や分析力を伸ばしていく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」と回答した児童が90%と市の平均より13.6ポイント上回っている。今後も分かりやすい授業を心がけるとともに、分からないときに「分からない」と言える学級の雰囲気作りを継続していきたい。

○「自分の行動や発言に自信を持っている」と回答した児童が76.7%で市の平均より9.1ポイント上回っている。今後も、善悪の判断をしっかりとさせ、積極的に行動できるよう支援していきたい。

○「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」と回答した児童が73.3%と市の平均より5.7ポイント上回っている。授業の中で、追及する時間をできる限り確保し、児童の意欲を満足させていきたい。また、自主学習にも生かせるよう支援していきたい。

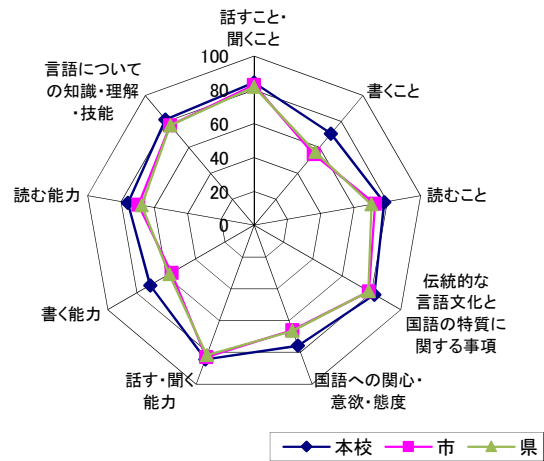
●「学習塾で勉強している」と回答した児童が56.7%と市の平均より約10ポイント高いが、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童が50.0%で、市の平均より17.8ポイント下回り、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童は60.0%で市の平均より1.7ポイント下回っている。このことから、「マイプラン」を活用し、宿題以外の学習を行っているものの、計画を立てて取り組んではないと思われる。今後は学校において家庭学習の計画を立てる時間を設定するなど、家庭学習に主体的に取り組むことができるよう指導を工夫していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童が80.0%と市の平均を19.8ポイント上回っている。自分の考えを分かりやすく書く力は、今後も重要視されている力なので、授業の中で時間を十分に確保し、例文を出したり、キーワードを提示したりして書くスキルを身に付けさせたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	82.9	81.8
	書くこと	70.6	54.8	56.5
	読むこと	78.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.1	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	75.8	66.0	66.4
	話す・聞く能力	84.4	82.9	81.8
	書く能力	71.0	56.3	57.9
	読む能力	75.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	81.6	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

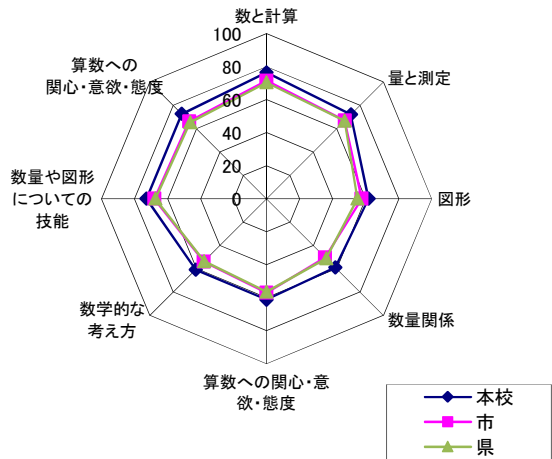
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県の平均より2.6ポイント、市の平均より1.5ポイント高い。特に話し方の工夫に気をつけて内容を聞き取る設問の正答率は90%を超えており、話の中心に気をつけたり、話し方の工夫を意識したりして聞く力が伸びていると考えられる。	・引き続き、授業の中で、友達の考えを聞いたり自分の意見を伝えたりする活動を多く設定し、話の中心を捉えて聞いたり、話し方の工夫を意識しながら話したりすることを意識させ、伝え合う力を伸ばしていく。
書くこと	○平均正答率は、県より14.1ポイント、市より15.8ポイント高い。特に、段落を考えて文章を書いたり、自分の考えを具体的に文章に書いたりする設問では、正答率が県の平均を15ポイント以上上回っている。無回答率も市や県より10ポイント以上低く、自分の考えを文章に書き表す力が育っていることが考えられる。	・文の長さや、段落構成など、指定された条件に合わせた文章を書く活動を設定し、様々な場面に対応した書く力をさらに伸ばしていく。
読むこと	○平均正答率は、県より7.6ポイント、市より5.5ポイント高い。説明文の内容を読み取る設問では、平均正答率が96.7%で、県の平均を大きく上回っている。文の内容を的確に理解する力が育っている。 ●物語の内容を読み取る設問では、登場人物の気持ちを読み取る設問の平均正答率が県の平均を4.2ポイント下回った。叙述や描写から人物の心情を読みとる力に課題が見られる。	・説明的文章において、文章の構成やキーワードなど、文章の内容を理解するためのポイントを丁寧に指導し、文章の内容を正しく読み取る力をさらに伸ばしていく。 ・読書などを通して、文学的文章に多く触れさせる。また、人物の心情について友達と話し合う活動を設定し、叙述をもとにして自分の考えを述べ合う中で、友達の多様な考えにふれさせ、内容や心情を読み取る力を育てたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、県より4ポイント、市より3.7ポイント上回っている。漢字の読み書きについては、ほとんどの設問で県の平均を上回っていた。漢字の基礎的な力が定着してきている。 ●文の連体修飾語についての問題では、平均正答率が県の平均より8.9ポイント下回った。文の構成要素や修飾語についての理解に課題が見られる。	・漢字の小テストやステップアップテスト等を活用し、学習した漢字を定期的に復習させたり、宿題や朝の学習で繰り返し練習させたりして、引き続き漢字の力の向上を目指す。 ・文の構成要素についての理解を深めるために、教科書の問題に加えて、プリントやドリルを活用し多くの問題に取り組ませ、理解を確実なものにしていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.5	71.5	70.4
	量と測定	72.2	67.0	66.9
	図形	61.7	57.6	55.0
	数量関係	58.9	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	61.1	57.0	56.3
	数学的な考え方	60.8	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	72.8	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	72.7	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

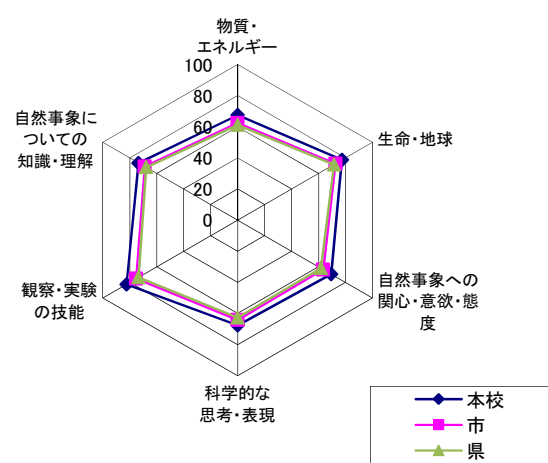
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は76.5%で、市や県の平均よりも5ポイント以上上回っている。特に、数直線上に示された分数を読み取る設問の平均正答率は96.7%で、県の平均より11ポイント高い。分数の概念や大小についての理解が定着している。 ●数の相対的な大きさについて理解する設問の平均正答率は53.3%で、県の平均よりも約5ポイント低く、千万のまとまりの何個分の数かを考える問題で課題が見られる。	・引き続き、学習活動の中で図や数直線を活用し数の大きさや関係を視覚的に捉えさせていく。 ・数の相対的な大きさについて理解することが苦手の児童に対しては、数のまとまりを意識させるような視覚的な支援により、イメージしやすくさせたり多くの問題に取り組ませたりして定着を図る。
量と測定	○本校の平均正答率は72.2%で、市や県の平均よりも5ポイント以上上回っている。特に、長方形の面積を求める設問や5等分した長方形の1つの辺の長さを求める設問の平均正答率は、県の平均よりも10ポイント以上上回っている。図形の性質や面積についての理解が定着している。 ●身近にあるもののおよその面積を理解する設問への平均正答率は、県の平均を上回っているが38.4%と低く、実際の面積の大きさを考えることに課題が見られる。	・実際の面積の大きさをイメージできるように、具体物を活用し大きさを考えさせたり、面積の数値と近いものを生活の中から探しだしたりする活動を設定していく。
図形	○本校の平均正答率は61.7%で、市や県の平均を4ポイント以上上回っている。特に、ひし形の作図についての設問の平均正答率は93.3%で、県の平均よりも13.3ポイント高い。図形の作図の技能が身に付いてきている。 ●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を活用して2つの道のりが等しくなる理由を説明する設問の平均正答率は13.3%と低く、県の平均より2.1ポイント低い。自分の言葉で説明しながら解決を図っていく問題に課題が見られる。	・引き続き、図形の特徴、性質、きまりを押さえながら、問題に取り組ませていく。 ・普段の授業の中で、根拠を明らかにして自分の考えを書いたり説明したりする場面を多く設定する。
数量関係	○本校の平均正答率は58.9%で、市や県の平均よりも7ポイント以上上回っている。特に、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問の平均正答率は50.0%で、県の平均より13.3ポイント高い。四則の混じった式の計算の順序についての理解が定着している。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問の平均正答率は66.7%で、県の平均より6ポイント低く、変わり方の法則を自分で見つける問題に課題が見られる。	・「計算のきまり」「変わり方調べ」の問題を解く機会を定期的に設定し、問題に慣れさせ定着を図る。 ・伴って変わる2つの数量の関係について、法則やきまりを見つける学習を継続的に行うようにする。その際に初歩的な問題から取り組みせ、確実に定着するようにしていく。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.4	62.4	61.1
	生命・地球	77.3	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.4	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	67.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	82.4	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	73.5	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は県・市の平均よりも5ポイント以上上回る結果となっていた。「物の体積と力」に関する設問では、空気でっぽうで空気をおし縮めたときの手ごたえと、玉が飛ぶ理由について80%以上の児童が理解していた。また、空気と水を閉じ込めた注射器のピストンを押すとどのようになるかについても9割近くの児童が理解できていた。前年度、本単元に関して、一人一人教材を用意し、その結果についての考察の時間を十分確保することができたのが、理解につながったものと考えられる。 ●「電気のはたらき」についての、電流を強くする乾電池のつなぎ方について説明する設問では、県の平均の値を上回ってはいるものの、45.0%の正答率であった。学んだことについて理解しているものの、それを相手に説明する力は十分とはいえない。	・今後も、できる限り個々に実験用具を用意し、自分のペースで取り組み、自分が見つけた課題を追求し学びを深められるように努めていく。 ・実験を行って得られた結果について、ペアやグループ、クラスでの意見の交換の時間を充実させたり、振り返りの時間等に、自分の言葉でまとめたりする活動を大切にし、理解を確実なものにできるようにしていく。
生命・地球	○平均正答率は県の平均よりも5ポイント以上上回る結果となっていた。「動物のからだのつくりと運動」について、動物の背中がまるく曲がる理由について推測できたり、筋肉が縮んだり、ゆるんだりすることで身体が動くことを理解できたりするなど、2問とも80%以上の正答率であった。映像や模型を使い、動きを視覚で捉えさせる学習を行ってきたため、理解はできている様子が見えた。この時間で何を学ぶかをしっかり押さえたことで、学びを確実なものにできたと考えられる。 ●「月と星」に関する設問で、図中で示された方位について推測する問題では、30.0%の正答率であった。地図上における8方位についての理解はなされているが、それを実際の場面で使えていない結果がでたように思う。	・児童が対象である自然の事物・現象に意欲を高め、主体的に追求していくことができるように、自然の事物・現象の提示の仕方を工夫していく。また、主体的な追求を意識させるためにはしっかりとめあてをもって授業に取り組ませるようにする。 ・授業で学んだことを実生活の中で生かしていくように、具体的な場面を例示していくように努める。

宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答率が83.4%で県や市より10ポイント以上上回り、「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答率が63.3%で、県よりも上回った。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で2時間以上という回答が、県や市よりも10ポイント以上上回った。マイプランの効果、宿題以外の学習（自主学習）への取り組みの成果が表れたと思われる。今後も継続して指導に当たりたい。

○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」で30分以上1時間より少ないという回答が、県や市よりも20ポイント以上、「1か月に、何冊くらい本を読みますか」で5～10冊という回答が県や市よりも20ポイント近く上回った。チャレンジブックの活用、授業内での図書紹介・読書の勧め等を意識的に行った成果が表れたと思われる。幅広い分野での読書ができるよう、今後も支援していきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答率が96.7%と、県や市よりも10ポイント以上上回っている。今後も、授業の工夫だけではなく、学校生活の中で児童が自信を持ち、物事に積極的に取り組めるように、様々な活動への支援を行っていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答率が53.4%で、県より14.9ポイント、市より10.7ポイント下回っている。基礎・基本の力を身に付けさせるためにも、課題の出し方を工夫し、授業の予習や復習の習慣化を図っていききたい。

●「ふだん、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム・携帯型のゲーム・携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」で、全くしないという回答がそれぞれ0%、10%だった。このことから、ほとんどの児童が日常的に機器に接していることが分かる。これらを正しく使用できるよう指導するとともに、家庭とも連携してより良い使い方やマナーを身に付けさせたい。

宇都宮市立中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「解決したい」「解決しなければならない」という思いをもつことができるような「課題」の設定と提示の仕方を工夫している。	・「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」についての肯定的回答割合は、4年生、5年生とも73.3%で、市や県の割合を上回っている。 ・「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問についての肯定的回答割合は、5年生で66.7%、4年生で63.3%で市や県の平均を上回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の充実	授業の中で、対話的な学び合いの場の設定や活動を工夫し、友達との考えの交流から、自分の考えを広げたり深めたりできるような指導を目指している。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」と答えた児童の割合は、4年生は63.3%で市や県の平均を下回っているが、5年生は83.3%で市や県を上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	定期的な漢字の小テストやステップアップテスト（漢字・計算）を実施したり、朝の学習で、担任以外の教員も含めた復習の指導者による学習支援を行ったりして、基礎的な学習内容の定着を図っている。	・国語の「基礎・基本」についての平均正答率は、4年生で73.3%、5年生で80.2%で市や県の平均を上回っている。また算数の「基礎・基本」についての平均正答率も、4年生で83.3%、5年生で74.4%で、市や県の平均を上回っている。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年で「家庭学習マイプラン」を実施し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、家庭での学習意欲を高めたり自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。	「家で自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定的回答割合は、4年生では市や県の平均を下回っているが、5年生は83.4%で、市や県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科についての調査の結果から、3教科とも、「思考・判断・表現」や記述の問題の平均正答率が市や県の割合は上回ってはいるが、70%に満たないものがあった。	「自ら考え、表現する」活動の充実	・各教科の授業の中で、目的を明確にもたせ解決過程を丁寧に扱い思考を伴う活動や問題に意図的に取り組ませる。 ・自分の考えを分かりやすく正確に伝えられるようにするために、文章や図等で表現したり、自分なりの言葉で話したりする活動の機会を多く設定する。